

1) 黒毛和種子牛の呼吸器病対策

舟橋 拓也

(北薩農業共済組合)

【背景】

出生子牛の 59.7%が呼吸器病に罹患する農場 (T 畜産：生産・肥育一貫経営) において、ワクチン及び添加剤等の対策を行った。なお、鹿児島県農業共済組合連合会の事故多発防止事業の助成を受け、実施している。

【材料と方法】

1. 供試牛

T 畜産の所有する複数の農場内、特に呼吸器病が多発する A 農場を対象とした。供試牛は、A 農場にて出生した子牛 36 頭である。

2. 使用薬剤

TSV-2、ネオドリンク、AVAILA4

3. プロトコール

- i. 分娩 90 日前より AVAILA4 給与
- ii. 分娩 30 日前にキャトルウィン 6 接種 (事業開始前より継続)
- iii. 母子分離時にネオドリンク投与
- iv. 30 日齢で TSV-2 とネオドリンク投与
- v. 農場移動時に TSV-2 とネオドリンク投与

【結果】

1. 発症率

59.7% (43/72 頭) から 52.7% (19/36 頭) に減少した。

2. 治療回数

最大値 102 回から 29 回へ、中央値が 21 回から 9 回へ各々減少し、有意差を認めた。

3. 治療費 (B 点及び事故外費)

それぞれ最大値 29,218 点・12,330 円から 11,049 点・7,600 円へ、中央値が 4,629 点・1,800 円から 2,253 点・1,080 円へ減少し、各々で有意差を認めた。

【考察】

子牛の栄養面での充足やストレスを与える前の対応により、発症率及び治療回数が減少したと考えられる。治療回数が減少したことに伴い、2019 年 3 月時点において、治療費が 2,133,260 円削減された。一方で、呼吸器病を発症した場合、半数が 9 日間以上の加療を要している。したがって、さらなる飼養管理の問題点を探求する必要があると考えられた。

なお、前年度及び本年度の出生子牛を比較対象としており、出荷までの期間にわたり追跡調査の実施中である。